

慈眼

第2号

発行所 小城郡三日町三ヶ島 妙勝寺内
 TEL 0952-73-2981
 FAX 0952-73-2981
 日蓮宗佐賀教化センター
 発行責任者 林 孝 隆
 印刷所 中野印刷所

「受持一行のお題目」

佐賀県布教師会会長
 北方町 梅林寺住職

山中前賢



佐賀教化センターから「慈眼」が発刊され意気旺んな若上人のスタッフで文書伝道の門が開かれました。今後のご精進を心よりお願いいたします。

去る六月二十九日全国布教師会連合会の総会が大阪で開かれ、その時の基調講演の講師石川泰道師は、「二十一世紀に向けての教説」の講話の中で大変指針にとむお話をなされました。

そのお話とは、私共が今推進している「お題目絵弘通運動」が単なる呼びかけに終わって、その実動がみえてこない。一体これはなぜなのか。これは私共が法華経の教説に対する姿勢が確立していないからで、法華経第十五の從地涌出品には「如蓮華在水」とあり、その泥水に浸ったままで華を咲かせることを忘れている。その泥水こそ私共の足下であって、その足下をみつめる時、今日、物は豊かになっても物の有り難さを知らない。頭のないエリートはいても、人としては駄目で、自分だけという思い上りの増上慢が多くなっている。こんな時代に法華経が葬式法事のお経になっていてはならないか。私共は大いに反省し懺悔しなければならないと力説されました。

法華経の中で毎日読んでいるのが、方便品と如来寿量品です。その方便品とは、お釈迦さまの弟子のなかで智慧第一といわれた舍利弗に向って説かれたお経です。「舍利弗よあなたの頭の智慧では解らない。よいか」とただされますと、舍利弗三度の請願によって説かれました。

世尊（釈迦）が諸仏に親近し、勇猛精進して開悟したものは、未曾有の甚深微妙の法で、妙にして思い難し、諸々の増上慢の者は、聞いて必ず敬信せじと説かれました。舍利弗仏智を測ることはできない信力堅固なる者だけが仏知見を開くことができる。舍利弗大信力を生ずべし、深心に仏を念じ浄戒を修持して定慧の力で身を莊嚴しなさいと。舍利弗は世尊に対し恭敬の心をもって従いたてまつりますと法のみ声を聞いて、心に踊躍をいだいて歡喜し、真にこれ仏子なり。仏口より生じ、法花より生じ仏法の分を得たりと信解のよろこびを全身で表します。

日蓮大聖人は法華経は釈迦如来の心中の本懐なりと明し、日蓮が為に説き下さったと受容し経文の如く信行し「諸々の無智の人悪口罵詈等し及び刀杖を加うる者あらん」との経文が我が身に符合した確信の喜びは身に余るとのべておられます。

私共が日蓮門下であるならば、大聖人のこの法華経受容の心根の深さをしらねばなりません。その心の自覚こそ受持の一行から生れるのです。大聖人は南無妙法蓮華経とばかり唱えて仏になること最も大切なりと示され、信力堅固で精進せよと励まされたのです。

きやくつてん

(かいつぶり)

仏教にはさまざまなる行事があります。特に春・秋のお彼岸、お盆などを営みます。お彼岸は本来私達の仏道修行の期間ですが、お盆と同じように御先祖様の供養も同時に営みます。

お盆の棚経を終えてふり返ってみますと、仏壇に御本尊様がおまつりしてない家や、中の掃除もしてなくホコリだらけの家もあることです。さぞや御先祖様はなげいておられることでしょう。

仏壇は家の中心です。正しくおまつりをしてお題目を唱え、明るく、温い家庭を築いて下さい。



護法大会

十一月二十七日(日)

武雄市文化会館

【特集】

《御会式》

日蓮大聖人が、私どもに身命を投げうって、南無妙法蓮華經の道を与えてくださった恩徳は、山より高く海よりも深いと申さねばなりません。この立場から、日蓮大聖人に心からの報恩感謝の御題目を捧げるのが「御会式」です。

《本年は、日蓮大聖人》

第七百十三遠忌

宗祖日蓮大聖人は、七百十三年前弘安五年(一二八二)十月十三日の午前八時頃に東京の池上にて波乱多き生涯を閉じられました。

その時に、弟子の日昭上人が鐘をついて日蓮大聖人の臨終を告げられました。又大地が震動し、秋だというのに庭先の桜が一斉に咲きほこったと伝えられています。(御会式桜)以来日蓮大聖人の弟子信者達が御命日の日、もしくは連夜に法要を営むようになり、その法要儀式を「御会式」とよぶようになりました。

会式は本来「法会」の意味であり(仏教各宗の読経、説法の集まりの事)「法会の式次」を省略し、敬語の「御」を付けて「御会式」といわれるようになったのですが現在では、「御会式」というと日蓮大聖人の御命日、連夜の法要を意味するようになってきています。

全国の日蓮宗寺院では、毎年十月(旧暦では十一月)には日蓮大聖人に報恩感謝の念を捧げ盛大に御会式を執り行って

います。日蓮大聖人が御入滅された大本山池上本門寺では、御会式が毎年十月の十一、十二、十三日の三日間、十二日の万燈行列は、特に賑やかで、全国各地から訪れる参拝者は数十万人に上るといわれています。万燈の歴史は古く、江戸時代頃から始まり、本来の意味としては日蓮大聖人に灯明を捧げる事で、その灯明が風で消えないように提灯をまとめて用いる様になったのが、現在の桜をかざった万燈になったとされています。



池上本門寺「御会式」万燈行列

【大聖人略伝】

年齢 事項

一	千葉県安房郡小湊に生まれる。(二月十六日)
十二	天台宗清澄入山 (二月十六日)
十六	道善房について出家、是聖房蓮長鎌倉遊学 念仏・禅を学ぶ。
十七	比叡山に留学。
二十一	立教開宗。(四月二十八日)
三十二	松葉ヶ谷に草庵をむすぶ。
三十三	「立正安国論」を著し、宿屋入道を介し北条時頼に上呈す。(第一回目の諫暁)
三十九	松葉ヶ谷法難。伊豆伊東に流罪。
四十	伊豆流罪赦免。鎌倉に帰る。(五月十二日)
四十二	安房国東条松原で東条影信に襲われる。「小松原法難」(十一月十一日)
四十三	「立正安国論」を幕府に上呈す。(第二回目の諫暁)
四十七	龍の口の斬首を免れ佐渡に流罪さる。「龍口法難」(九月十三日)
五十	「開目抄」を著す。
五十一	「観心本尊抄」を著す。
五十二	佐渡流罪赦免。(二月)
五十三	鎌倉に帰る。(三月)
五十四	平頼綱と会見し、蒙古問題について意見を述べる。(第三回目の諫暁)
五十五	身延入山。(五月)
六十一	「撰時抄」を著す。 「報恩抄」を著す。 身延を出て、常陸に向かう。(九月八日) 武蔵池上郷の池上宗仲の邸に着く。 池上にて入滅。(十月十三日)

お話ししましよ
ご先祖様と



梅谷佛具店

〒812 福岡市博多区下川端町11-3(券通り)
☎092-271-0456(代) FAX.092-271-0464

拝む心で尊い品を
仏壇・仏具・寺院用具 寺院納骨堂設計施工

仏壇・仏具
製造販売

創業明治10年



(株)村山佛光堂

本店/佐賀市水ヶ江2-7-39
展示場/本店ヨリ北へ2軒目
工場・倉庫/佐賀市水ヶ江1-4-23

☎0952-23-7595

《御会式は、お題目信仰》

《反省の日》

私たち、日蓮宗の信徒は、御会式を迎えるにあたり、ただ漠然と法要を営むというのでは悲しい気がする。日蓮大聖人が我が命に替えても末法の世を救済せんが為、お釈迦様の本当の教えである法華経とそのエキスのお題目を弘められた事を思う時、私達はただ単に歴史的な流れとして受け止めるのではなく、日蓮大聖人の御心に真剣にふれていく気持ちを抱く事が大事である。

この一年間、いわゆる昨年の御会式から今年の御会式迄の間、自分のお題目信仰が如何様であったか、空題目になっっていなかったか、心の底からの本当のお題目を唱えていたのか、反省の起点とすべきである。この反省なくしては漫然としたお題目信仰になり、そこには何にも向上は生まれない。反省をし、新たな前進をお誓いし、宗祖に御奉告申し上げるのが本来の御会式の意義である。

私達は、仏子であり宗祖の弟子であるという自覚を持ち、強盛なる法華経の信者として努力すべきであろう。

今は、末法のご真中、今こそ法華経の実践の時期である。自分だけが幸せになればいいというのでなく周囲の人々全てが幸せになってもらいたいという菩薩の心を持つ修行が大事になってくる。

自分の事よりも周囲の人に対して素直に合掌が出来る人間になりたいものだ。この一年間、合掌のある素晴らしい生活を営み、本当のお題目をお唱えして頂きたい。



宗祖御入滅之図

《御会式に想うこと》

日本は世界一、経済・物質に恵まれた豊かな国といわれていますが、真に生活のゆとりと満足度は十分でしょうか。

私たちは、一つの願いが叶うと、更なる上を望んでしまいます。そこには心の満足はなく、それだけでは決してしあわせとはいえないようです。

その為にも、精神面の修養により、より心豊かな生き方が必要です。そしてそこにはよき指導者がいなければならぬでしょう。

既に現役の野球選手から引退した王さんが、テレビで「私がホームラン王になり、満足できたのは、荒川さんという名コーチにめぐり会い、私をとことん鍛え指導してくれたおかげでした。」と述べていました。精神、心の世界でも同じようによき指導者にめぐり会いたいものです。

日蓮大聖人は「法華経の観心、諸仏の眼目たる妙法蓮華経の五字、末法の始めに一閻浮提にひろまらせ給うべき瑞相に日蓮さきがけしたり。わたうども二陣三陣つづきて：・」（種種御振舞御書）と申されております。

つまり仏（釈迦）の本心、魂は妙法蓮華経とさとられました。そして、それを口だけでなく、身、心に南無妙法蓮華経とたもつことによりすべての人々の仏の心を開き、真にしあわせな仏の国土を建設する道を指し示していただきました。

御会式に臨み、生命をかけて私たちに御題目を伝えてくださいました日蓮大聖人の遺徳を偲ぶと同時に、私たちに末法の世を生き抜く指針を示してくださいました偉業を今一度顧みなくてはなりません。

お詫と訂正

創刊号、仏壇のイラスト中、画「宮尾一郎」は「宮原一郎」氏の誤りです。お詫びし訂正いたします。

- 殿机具路者
- 宮経仏瑠瑠
- 物壇品具刻
- 金弥彫用彫
- 鏝術殿像
- 須美神仏
- 卓復蓋画他
- 天絵の
- 前修人宗其
- 一式座壇幡物
- 院用高
- 寺登仏幢塗

手を合わせるころを大切に・・・

山本仏具

佐賀市呉服元町10-12 23-4308
〒840 ☎ (0952)



寺院紹介 (二)

《龍王山 勝妙寺》

日蓮大聖人がお書きになられた大曼荼羅御本尊が奉安されている事で皆様ご存じのお寺です。南には広々とした田園風景が広がり北には天山々系の山が望める三日月町深川の地にあります。

【歴史】

勝妙寺の開山日厳上人は、千葉県中山法華経寺の二代目の住職であった日高上人の弟子でしたが、日高上人は、日厳上人に西国の布教を命じました。そこで、日厳上人は正和二年(一一三二)、千葉胤貞公の子、胤泰公が鎮西下向の折、同行された小城の地で布教をされました。最初、勝妙寺は松尾山光勝寺の西谷に有りましたが、四代目日妙上人の時に三日月町藤織の地に胤泰公より境内地並びに田畑を寄進され移転しました。その後、元龜元年に豊後の乱が起り、今山合戦の時



逆縁の御本尊

に悉く焼失し、そののち現在の地に移転しました。

【本堂と勅額】

勝妙寺の住職は、歴代にわたって宮中に仕え十五代目の日尖上人の時、時の天皇より勅額が下賜されました。

現在の本堂は、昭和四年、二十四代目の住職でありました日雷上人によって建てられたお堂です。間口九間、奥行き十間の大変大きなお堂で、お堂の入り口に「勅許勝妙寺」と書かれた勅額が掲げられております。

【逆縁の御本尊】

勝妙寺に奉安されております、日蓮大聖人がお書きになった大曼荼羅御本尊は弘安元年七月、日蓮大聖人が御年五十七歳の時、日賢と云う人に授与されたものです。日賢と云う人は俗名を依智三郎直重と申しまして、日蓮大聖人に刃を向けた人です。

文永八年(一一二七)九月十二日、龍口法難に逢われ首を打たれようとされました。このときの首打ち役人が依智三郎直重です。日蓮大聖人は諸天善神のご加護を得て難を逃れましたが、佐渡へ島流しの身となりました。

幕府より赦免状が届き、文永十二年三月二十六日鎌倉へお帰りになりましたが、同年五月十七日、山深い波木井ノ郷身延山へと御入山されました。

龍口法難より八年後の弘安元年七月のある日、身延の御草庵を訪れた旅姿の老武士がありました。この人こそ、依智三郎直重でした。役目とは申しながら日蓮大聖人に刃を向けた事を深く懺悔し法華経の信者とならん事を誓い、又、大聖人のお弟子にと熱望致しました。日蓮大聖人は非常にお喜びになり日賢という名前を授けられました。直重はその場で剃髪し出家を致しました。

この時に授与された御本尊が勝妙寺に奉安されております御本尊で、日厳上人が鎮西下向の際、この御本尊を師範日高上人より託されたこと伝えられていて、逆縁の曼荼羅、または剃髪の曼荼羅と呼んでおります。



勝妙寺全景

松島正侑住職

ふんわりやわらかおいしいツルノコ

博多銘菓



鶴乃子

株式会社

石村萬盛堂

〒810 福岡市博多区中州3丁目7-18
TEL (092) 291-6063

創業明治22年

旅館

あけぼの

佐賀市中ノ小路3-10 ☎ (0952) 24-8181